

第48回日本看護学会—看護管理—学術集会開催 「変化をみかたに!—地域包括ケアシステムを支えるマネジメント」をテーマに

2017年10月12日、13日の2日間にわたり、第48回日本看護学会—看護管理—学術集会が、札幌コンベンションセンターを主会場に開催された。学術集会会長は、北海道看護協会会長・上田順子氏が務めた。テーマは、「変化をみかたに!—地域包括ケアシステムを支えるマネジメント」。2025年を前に、医療・介護・福祉が連携した地域完結型の医療体制の構築が急務となる中、本学術集会では、これを推進するための看護管理の役割を考察する多彩なプログラムが企画された。参加者数は約3500名。

(本誌編集室)

特別講演 I

特別講演 I では、「地域医療構想—北海道の取り組みと課題」(座長：荒木美枝氏 [北海道看護協会]) として、北海道保健福祉部地域医療課長の小川善之氏が登壇。2016年12月に策定された北海道の地域医療構想の内容を紹介した。広大な土地に人口が分散して居住する「広域分散型」「厳しい寒冷気候」という北海道の特性を踏まえれば、医療資源に限られた圏域での病院機能分化や、等しい条件による在宅医療の推進が困難な場合もあるとし、実情に応じた地域包括ケアシステムの構築が求められるとした。

また、「広域・寒冷」の地に暮らす住民が、医療・介護・福祉サービスにアクセスしやすくするための北海道ならではの施策として、ICTの利活用や、病院の近くやまちの中心部への住まい確保策を

紹介した。住まい確保策では、公立病院の休床中のフロアをサービス付き高齢者住宅に転換した事例などを挙げた。

小川氏は、地域医療構想は「まちづくり」を考えることであり、生活者である地域住民と共有していくことが重要と述べた。そして同構想を数合わせに終わらせないためには、推計データだけではなく実際に地域で医療・介護サービスに関わる人の「肌感覚」も大切にしてほしい、と参加者に呼びかけた。

交流集会 II

本学術集会では地域包括ケアシステム以外にも、日本看護協会の重点事業関連や、看護師の働く環境を考察するためのプログラムが企画された。

交流集会 II 『『医療事故調査制度』における看護管理者の役割』は、日本看護協会会長の福井トシ子氏による座長のもと企画された。ここでは、2015年に開始された「医療事故調査制度」を、医療事故防止や医療安全文化の醸成につなげるための看護管理者の役割について意見交換がなされた。

実際に医療事故調査・支援センターへの報告事例を経験した、森田知子氏(杏林大学医学部付属病院総合周産期母子医療センター看護師長)と、加藤久美子氏(JA北海道厚生連札幌厚生病院看護部長)の2名が登壇。森田氏は、再発を防ぐための個人(スタッフ)、組織(システム)双方への医療安全体制強化の取り組みを紹介した。加藤氏は、患者・家族や職員、社会に対する透明性を確保した事故後のあるべき対応の姿について、「看護管理者の倫理的行動」を中心に経験と考えを述べた。

2つの報告から、「『予期せぬ死亡事例』発生時のルールづくり」「経時記録の内容」「事故に直面したスタッフへの支援」などの共通課題が浮かび上がった。いずれも平時からの時間をかけた仕組みづくりや教育研修が必要となる

もので、看護管理者のリーダーシップが期待される。

シンポジウム III

シンポジウム III 「看護師のクリニカルリーダー(日本看護協会版: JNA ラダー)とアドバンス助産師—活用の実例」(座長: 萩原直美氏 [札幌医科大学附属病院], 渋谷美香氏 [日本看護協会]) では、JNA ラダーを組織内の人材育成計画に活用する事例として、松本淳子氏(オリーブ小野訪問看護ステーション管理者)、勝見真澄氏(市立札幌病院看護部長)、平岡翠氏(名古屋市立大学病院副病院長兼看護部長)、以上3名の看護管理者が登壇した。

中でも平岡氏は、JNA ラダーが完成した2014年にいち早く、旧来の院内ラダーからJNA ラダーへの移行を意思決定して導入を推進した立場から、報告を行った。平岡氏は「ラダーレベル別の学習内容」「部署でのOJT」「評価システム」の3つの視点から移行後の教育計画を紹介。学習内容では、「看護実践能力」と「そのほかの能力」に区分して研修計画を立案している。「そのほかの能力」の1つとして多職種連携、リーダー、プリセプターなどの役割を示す「組織役割遂行能力」を位置づけており、組織としてこの育成を重視しているという。

また、評価システムでは、7名のキャリア支援担当看護師長を配置した上で、自己評価と2段階による他者評価を導入し、学習内容の振り返りと定着につなげるなど手厚い仕組みづくりを行っている。名古屋市立大学病院の一連の取り組みは、これまでの院内ラダーからJNA ラダーへの移行の成功事例として、他施設の参考になるものと思われた。

第49回学術集会は、2018年8月9日、10日、仙台市の仙台国際センターを会場に開催される予定。

